

## 第7回 北広島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 会議概要

日 時	平成 28 年 7 月 22 日（金） 15：00～16：40
場 所	市役所本庁舎 2 階会議室
出席委員	山本一彦委員・麻生昌裕委員・井出真也委員・小野麗子委員・笠井孝一委員・ 穴戸圭子委員・田辺きよみ委員・藤山康雄委員・深村真人委員・古澤将委員・ 山口隆弘委員
欠席委員	丹野司委員・宮岡則昭委員・渡辺勤委員
事務局	中屋企画財政部長・川村企画財政部次長・橋本企画課長・山田主査・ 塚田主任
傍聴者	0 名
会議次第	1 開 会  2 報 告 （1）平成 28 年度まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議について  3 議 事 （1）平成 27 年度実施事業の効果検証について （2）平成 28 年度実施事業の進捗状況について （3）次回推進会議の日程 （4）その他  4 閉 会

### 会議録

#### 1 開会

- ・委員 14 名中 11 名が参加。委員の過半数が出席していることにより、会議が成立していることを報告。

#### 2 報告

##### (1) 平成 28 年度まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議について

##### 【事務局】

- ・総合戦略推進会議の所掌事務については、設置条例において総合戦略の策定及び進行管理に関することと定めており、本年度からは、昨年度策定した総合戦略の

進行管理を行う。具体的には、数値目標や重要業績評価指標 K P I を設定しているため、目標の達成度や事業の評価、検証を行う。

- ・本年度については国の地方創生先行型の交付金を活用した事業を中心に、進行管理を行う。

**【委員】**

- ・とくに意見はなかった。

**3 議事**

(1) 平成 27 年度実施事業の効果検証について

(事務局より資料に沿って説明)

〈全体について〉

**【A 委員】**

- ・資料内にある事業の評価（案）は何段階あるのか。

**【事務局】**

- ・「非常に効果的であった」、「相当程度効果があった」、「効果があった」、「効果がなかった」の 4 段階である。

**【B 委員】**

- ・各事業の具体的な施策とその結果も示す必要があるのではないかと。

**【事務局】**

- ・今回の資料は、K P I を市で設定し、この事業をやって実際このぐらいの効果があったという形になっている。そのため、例えば、K P I に相当開きがあるものについては、意見をもらい、市では改善、加えるところは加えながら事業の推進を図っていきたいと考えている。

〈各事業について〉

(若年層新規雇用助成金交付事業、企業誘致推進事業)

**【C 委員】**

- ・雇用された方が北広島市に住んでいるかどうかは対象となっているのか。また、仕事が続いているかどうかは確認しているのか。

**【事務局】**

- ・どちらの事業とも市内居住の方を雇用した場合の助成金になっている。
- ・若年層新規雇用助成金交付事業は、3 カ月の雇用の経過の確認がとれれば、その後の追跡はしていない。また企業誘致推進事業は、3 年以上の雇用が条件になっており、毎年度検査に入って、雇用が継続されているか確認している。

**【D 委員】**

- ・市内の 35 歳未満の求職者はだいたいどの程度いるのか。

**【事務局】**

- ・市では求職者数を把握していない。ハローワークで求人求職の情報等を扱っており、ハローワークでは管轄地域全体の数についてはおさえていると思われる。

**【E委員】**

- ・助成金があるというのを、北広島市内の事業者はどれくらい知っているのか。

**【事務局】**

- ・若年層新規雇用助成金交付事業は、今回の実績からも十分に企業に情報が行き届いているかどうか胸を張って言えるような形ではないので、工夫をしていく必要がある。
- ・企業誘致推進事業は、その誘致活動を進めるうえで、誘致した場合の支援などについて発信しているので、誘致を考えている企業に対しては、事業の中身についてはある程度行き届いていると考えている。

(コミュニティビジネス創業支援事業)

- ・とくに意見なし

(空き店舗利用促進事業)

**【D委員】**

- ・数年前から商工会で審査をしている。最初は、なかなか長続きしない、せっかく始めてもすぐやめてしまう、つぶれてしまうという状況があったので、事業の継続について経営指導員がしっかり指導するようにしている。

(シティセールス推進事業)

- ・とくに意見なし

(幼稚園就園準備支援事業)

- ・とくに意見なし

(ファーストマイホーム支援事業)

**【E委員】**

- ・北広島市に家を建てるのが決まっていて、決まった後に、制度を知る人が多いのではないかと。本来は、「ファーストマイホーム支援事業というものがあり、北広島はすごく市民に優しいまちであることから北広島に住んでみようか」という方に対して支援する事業だと思うが、どうか。

**【事務局】**

- ・この事業は平成26年度からスタートしており、当初は市内の不動産会社や札幌市にある住宅の協会、建設業協会などさまざまな箇所に情報を流すとともに、

金融機関にも協力をいただきチラシの配架を行った結果、この制度については広く認知されていると考えている。アンケート結果からも、「この制度があったから北広島に来た」という方もいる。

#### 〈評価について〉

##### 【会長】

- ・いろいろと事業内容があることから達成度を比較しにくい部分もあるが、“有効であった”という評価をしていただいて問題ないか。

##### 【委員】

- ・とくになし

##### 【会長】

- ・外部有識者の意見欄に、今回の委員からの内容を記載して、事業の評価は“有効であった”とする。

#### (2) 平成 28 年度実施事業の進捗状況について

(事務局より資料に沿って説明)

#### 〈全体として〉

##### 【F 委員】

- ・K P I は平成 31 年までのものであり、この進捗状況が早いのか遅いのか、何が出来ていなくて、何がネックなのか見えてこないので、事務局で議論してもらいたいことがあれば付記してもらえると分かりやすい。

##### 【事務局】

- ・今回の資料は、総合戦略の事業の進み具合を、委員の皆様と情報共有したいと思い作成したものである。なお、各事業は総合戦略に基づく事業であることから、事業推進にあたり委員の皆様に諮りたいことがあれば、会議の場において話をしたい。

#### 〈1 『希望』～子どもを産み育てたいという希望をかなえる～〉

##### 【G 委員】

- ・産科誘致推進事業について、平成 29 年度以降の実施となっているのは、優先順位の中で決めたことと思われるが、産科がないのがより長く続くことになるので、市のイメージとしてはマイナスなのではないか。

##### 【事務局】

- ・予算措置はしていないが、産科誘致に向けた制度設計を進めており、事業の推進にあたって、全く議論、検討がなされてはいない訳ではない。

**【A委員】**

- ・ワーク・ライフ・バランス推進は、なかなか一筋縄にはいかない問題であると思うが、進捗状況はどうか。

**【事務局】**

- ・資料のとおり、企業の実態やどのような支援ニーズがあるのかという掘り起こしをするための準備を進めている。また、先進事例からどのような支援ができるのか並行しながら検討している。

〈2 『交流』～北広島市への新しい人の流れをつくる～〉

**【E委員】**

- ・おためし移住事業について、利用される方はどこから来ているのか。そして、来ている方々は何を見てこういう事業があるということを知ったのか。また、実際に移住された方はいるのか。

**【事務局】**

- ・関東周辺が多いが、西日本からも来ている。年代的には60代が多く、時間があって移住体験についてもともと興味を持っているような方が、インターネットや口コミ、仲間同士の口コミなどから知ることが多いと聞いている。なお、実際に移住に結びついた事例はないが、北広島のアクセスのよさを実際に体感し、それを日記の中で発信している状況である。今後、実際の移住に結びつくと、この事業の効果が出てくると思っている。

**【G委員】**

- ・シティセールス推進事業は定住促進のプロモーションであり、平成27年度は子育て世代をターゲットしているが、平成28年度も変更はないか。

**【事務局】**

- ・変更ない。

**【G委員】**

- ・進捗状況にはマンガコンテンツが記載されているが、この内容だけでよいのか。

**【事務局】**

- ・今後の新たな取り組みとして、トピックス的に抜き出してマンガコンテンツを記載しており、従来やっていた子育て世帯向けのPRに加えたものである。

〈3 『成長』～時代に合った魅力的なまちをつくる～〉

**【B委員】**

- ・空き家流動化促進事業は、すでに予算の10件に達したということだが、費用負担等がある程度軽減されれば、一層空き家の解体が進みそうだという環境なのか。

**【事務局】**

- ・空き家の解体に係る市民のニーズは相当あるという感触を得ている。

**【E委員】**

- ・空き家解体の10件のうち、売却まで至っているものはあるのか。

**【事務局】**

- ・基本的には解体後には新しい住宅建設や流動化につながる売却の意向を持っている方が対象となる。制度が始まったばかりなので、新たな住宅が建ったというところはないが、今後、新しい流れが生まれると感じている。

**【H委員】**

- ・一戸建てを解体すると、およそいくらぐらいとなるのか。

**【事務局】**

- ・家の大きさや作りによって幅はあるが100万円から150万円位である。

**【G委員】**

- ・子ども夢チャレンジ応援事業は、アンビシャスシティのまさに真骨頂というか、象徴的な事業であると思うが、具体的にどのような助成となるのか。

**【事務局】**

- ・プロゴルファーになりたい方は、北海道から出てそのようなことをしている人たちの間に入って切磋琢磨してもらって、刺激を受けながら自分のレベルアップを目指す。
- ・世界で活躍するバレエダンサーになりたい方は、実際に海外に行っていて短期留学も兼ねてバレエをしている人たちの中に入る。
- ・バリスタになりたい方は、実際の店舗を借りながら、実際に経営から豆をやって何してというところまでやっていただく。

**【D委員】**

- ・子ども夢チャレンジ応援事業は、3つの他にどのような応募があったか。

**【事務局】**

- ・スポーツ関係で、「プロスポーツ選手」が多かった。今回の募集において重視したのが、自分で、手書きで用紙に記入し、何がしくてそのためには何をしなくてはならなくて、そのためにはどういった人に関わってもらい、またお金がかかるのかというところまで、しっかり書いたものを出してもらうことであった。

〈4 『挑戦』～チャレンジできる環境をつくり、起業と雇用を促進する〉

**【B委員】**

- ・起業支援促進事業については、件数は多くはないが、道の制度資金で創業支援の制度資金があり、これとマッチングできるケースがあるかもしれない。

**【A委員】**

- ・コミュニティビジネス創業支援事業と若年層新規雇用助成金交付事業は、申請0件だが、今年度どのような改善を図ろうとしているか説明してほしい。

**【事務局】**

- ・コミュニティビジネス創業支援事業は、27年度は4月に募集を開始して、5月には審査にあたるために募集を締め切っている状況だったが、今年度は随時の相談、随時の申請を受け付ける体制に変更した。また、周知の方法については、新たに商工会にもチラシを配布して周知の強化を図っているところである。なお、当事業はコミュニティのビジネスのためのもので、もともと敷居が高く、ニーズの掘り起こしがなかなかうまくいっていない現状もある。
- ・若年層新規雇用助成金交付事業は、前年までは広報とホームページへの掲載周知がメインだったが、市内の商工会を通じた企業への周知、ハローワークに対するチラシの配布によりPRを強化している。なお、当事業は4月の通常の中企業者の採用に対する補填ではなく、5月1日以降に求職者に対しての採用に対する30万円の補助であるため、ニーズはあってもなかなか採用にはつながらない。

**【D委員】**

- ・年齢の範囲を状況に合わせた形で考え直していただけるとありがたい。

**【F委員】**

- ・六次産業化等支援事業とグリーンツーリズム推進事業（施設等整備）の今年度の事業内容はどのようなものか。

**【事務局】**

- ・先進地視察とセミナーによる農業者の意識啓発である。

(3) 次回推進会議の日程

- ・次回会議は、10月を予定しており、実施日については、改めて調整したい。

(3) その他

- ・地方創生推進交付金及び地方創生応援税制について資料に基づき説明。事業推進にあたっては、利用できる制度の活用を図るなど財源確保を念頭に市の財政状況を見ながら事業内容や規模も精査して慎重に計画を進める。
- ・委員の一部変更、退任の報告。

3 閉会